妹が、結婚式に兄の出席を強く願う、快い話

あるメル友は、私が担当していた病棟に入所中のＴ君のお母さんとお住まいが近く。買い物途中でお会いした折、Ｔ君の妹さんが「結婚式に兄もぜひ出席させて欲しいと云ってくれているが、当日付き添ってくれる人が…」と思案しているとのメールを先日いただいていた。

そう案じることでなく、「職員か、ボランティアの学生に声をかけてみればいい話」と思っていた。

今日、病棟に顔を出した折、面会のＴ君のお母さんにお会いしたので、「誰か見つかった？」と声をかけたところ、病棟に出入りしＴ君のこともよく知っている大学院生にお願いし、快く引き受けてくれたとのこと。もし見つかっていないなら、私から推薦しようかなと思っていた、私とは今も色々交流のあるＯ君だったので、一安心。

私がＯ君にお礼をいう筋合いはないが、なぜか、つい「妹さんの結婚式のＴ君の出席に、付き添ってあげるとか。良かった。ありがとう。」とメールした。

早速、彼から「お母さんには先々週に声を掛けられて、了解しました。妹さんは以前から知ってました。とてもいい子ですよね。なんでもお母さんと妹さんとで『誰かいい人いないかな』と話をしていたときに、真っ先に浮かんだのが僕だとのことで、なんとも光栄なことです。」と、Ｏ君はＯ君なりに喜んでくれている返信。

もう、３０年ほど前になるが、ある入院児の親から、「姉の結婚話が進んでいるので、この子のことで、もし問い合わせがあった時は、入院していないと答えて欲しい」と依頼されたことがある。私も若かったので、「この子は家族ではないのか！」と腹の中は煮え繰り返ったが、親には直接口に出せなかった痛恨の経験があった。

また、時代は変わってきているとはいえ、現実問題としては色々配慮が必要であり、まだ兄弟、姉妹の結婚式に入所中の重症児を同席させるケースは全てとは云えない実情。また、在宅であっても式の折には短期入所を利用するケースもあると聞く。

それだけに、今日は、快い気分にさせていただいた。

（2004 年 11 月 10 日　記）